

2024 年度 運営計画

北星学園大学附属高等学校



Shine Forward

未来に向かって 自分らしく輝け



I. はじめに

「安心なさい。わたしだ。恐れることはない。」
マタイによる福音書 14 章 27 節

北星学園大学附属高校は、スクール・ミッションとして「キリスト教精神に基づいた他者と共に生きる自立した市民としての人格形成を育む」ことを教育目標として掲げ、さらに3つの力を育成することを大切にしてきました。

- ① 「共育」を理念とし、他者の意見を聴き主体的に思考できる生徒の育成
- ② 「知る力」を養い、自己理解と世界理解を深め、社会における自らの視野を広げることのできる生徒の育成
- ③ 「探究」することによって、学びを社会につなげ、社会に還元する力を身に付けた生徒の育成



北星学園大学附属高等学校
校長 今城 慰作
IMAJO, Isaku

2020 年度には、「学校法人北星学園中長期計画～グランドデザイン 2020-2040～」を策定し、「2040 年度までの目指す姿」を設定しました。また、2022 年度には「2030 年 Milestone（中期目標）」を据え、年度ごとのアクション・プランに従い、計画を実行しています。

少子化が進行する中、経営改善・教育改革に継続して取組み、本学のキリスト教精神に基づいた人格教育をより充実させることが、まず何よりも大切です。その上で、5つの教育を柱とするブランド力ある高等学校として、チャレンジを続けます。

教学の観点では、本学の教育を深化させるために、各教員が国内の最新の技術を身につけ、学びを深め、社会のニーズを適切に把握し、時代の流れに流されない芯をもちつつ、実存する人間そのものを大切にする活動を展開することを目指します。財政運営については、グランドデザインに掲げる2030 年度までの中期的な財政計画に基づいて、今年度も改善を目指します。

北星学園大学附属高等学校の中長期計画

★ 2040 年までに目指す姿

【5つの教育を柱とするブランド力ある高等学校】

1. 「時代の変化」に則し未来をひらく教育
2. 課外活動等を通して「人間性」を育てる教育
3. 多様性を尊重しながら「社会性」を育てる教育
4. 語学・異文化理解・平和教育を通して「国際性」を育てる教育
5. 北星学園大学との高大接続教育

★ 強化・改革に取り組む事柄、2030 年 Milestone（中期目標）

「(資料) 北星学園大学附属高等学校の中長期計画」参照

★ 中長期計画の推進について

中長期計画の推進にあたっては、設定した「強化・改革に取り組む事柄」、「2030 年 Milestone（中期目標）」に基づいた単年度計画を策定し、浸透を図ります。そのうえで計画に沿って活動し、進捗管理・自己点検を通して各取組みの推進を目指していきます。年度末には、運営総括のなかで各取組みを評価し、次年度計画に引き継ぎながら中長期計画の推進を図っていきます。また、必要に応じて中長期計画を見直すことで、実態に即した取組みとなるよう改善していきます。



中長期計画の推進についての概要図

Ⅱ. 重点施策

1. 教学の観点では、本学の教育を深化させるために、各教員が国内の最新の技術を身につけ、学びを深め、社会のニーズを適切に把握し、時代の流れに流されない芯をもちつつ、実存する人間そのものを大切にする活動を展開することを目指します。

(1)	教員のスキルアップのために動画視聴研修の視聴回数を 10%増加させます。
(2)	各教科（特に数学）の外部模試での偏差値上昇を目指します。
(3)	生徒に寄り添い、転出者を 5 %以内におさえます。

Ⅲ. 教学

I. 教科教育

1. 知識を得ることや学ぶことに能動的に取組み、自らの世界を広げることができるように、授業や行事を計画する。

(1)	一方的に知識を得る授業ではなく、主体的、能動的に教科に取り組む生徒を育む仕掛けを工夫し、回数をカウントして次年度以降の基準として増やします。
-----	--

2. 学習の機会に他者の考え方や価値観に触れさせ、知識や視野を広げ（深め）る事で、人間性の成長を図る。対話による学習の機会を多く設け、周りの力も借りながら課題解決の力を養えるような指導力を身につける。

(2)	映像教材や出張講義を利用して、外部で社会活動をしている方々の考え方に触れ、表層的な成果だけではなく、背後にある知識、苦勞を知る力を育みます。
-----	--

3. 適宜必要な情報を導き出し、それらを有機的に組み立て活用し作り上げていく力を育めるように、教員の情報スキルを高める。

(3)	教員のスキルアップのため、動画配信型講義の「F i n d アクティブラーナー」の視聴数を前年度比 10%増加させます。
-----	--

4. 高校生活の間に、科学的・論理的な思考を深める事ができるように、3年間の学校生活の中であらゆる機会を通じて学ばせる。

(4)	ベネッセの外部模試を分析結果では、数学の学力が全国平均より低下している傾向があるため、偏差値上昇のための方策を立てます。各教科、平均偏差値 40 を超えることを目標とします。
-----	---

5. 発表の力を身に付けられるように、複数の教科で探究的な学習を行う。

(5)	各教科の中で、一方的な知識の詰め込みにならず、学習効果の高い授業を各教科で点検します。
-----	---

6. 主体的・対話的で深い学びの実践を進める。

(6)	教師が講義する形式から、生徒の学びのファシリテーターのような役割を担えるような授業を創造していくことを目指し、方策を研究します。
-----	--

7. ICTを活用し、知識・技能の定着を図りつつ、効率良く学習できる環境を整える。

(7)	ICT教材を活用して、各自の苦手分野の克服を行い、理解のないまま先に進むようなことがないように、効率的な学習方法を模索します。
-----	---

8. 思考力・表現力・判断力を身に着け、自立した自己を確立する。

(8)	一方的に知識を得る授業ではなく、主体的、能動的に教科に取り組む生徒を育む仕掛けを工夫し、回数をカウントして次年度以降の基準として増やします。
-----	--

9. 多様性・協働性を意識し、他者や社会、世界とつながりを意識した課外活動を行う。

(9)	課外において、さまざまな人種や幅広い年齢層の人達との協働作業に取り組んだ回数を各学年1～2回に設定します。
-----	---

10. 変動する世界状況の中で、普遍的な真理（キリスト教精神に根差した人間観、倫理観など）を探究する。

(10)	平和学習を基盤とした企画を行います。各学年1～2回設定します。
------	---------------------------------

11. 上記項目の目標を達成するために、外部研修への参加推奨、オンライン講義の参加、講師を招いた研修会の開催などで教員のスキルを向上させる。

(11)	教員のスキルアップのため、動画配信型講義の「Findアクティブラーナー」の視聴数を前年度比10%増加の数値目標をもって、教職員がオンライン、対面の研修への積極的な参加を行い、スキルを身につける努力を行います。
------	--

II. 生活指導

1. 人は社会の中で育つという考えに基づき「集団づくりを中心に据えた教育」を理念とする実践構築のための具体的な仕組みを確立する。

(1)	学年団と共に、入学プログラムの総括を行い次年度に繋げます。人間関係の悪化による退学者の減少を目指します。
-----	--

2. 他者理解と自己表現を養いながら、「人間性」「社会性」を育てるため、課外活動の活性化と指導体制を強化する。

(2)	クラブの加入率 65%を維持します。定期的なアンケートについては、今年度、70～80%の回答率を目指します。
-----	--

3. 生活指導上の問題が起こる前に全教員で「未然に防ぐ」ことができる指導体制を構築する。

(3)	教育支援チームとSSWとが、連携を強め問題行動を未然に防ぎ、指導案件を5%ダウンできるようにします。
-----	--

Ⅲ. 進路指導

1. 生徒自らが望む将来像に見合った進路選択ができるように、進路指導体制を強化する。

(1)	卒業時にアンケートを実施し、生徒自身が、進路実現ができたかどうかの満足度を調査することにします。
-----	--

2. 大学生（学園内）との交流等も含めた高大連携事業の効果を検証し、取組みの強化を計りながら学内進学者を増やす。

(2)	高大連携で取組んできたことを継承し、北星学園大学への進学者数 70 名の目標実現を目指します。
-----	---

3. 時代によって変化する大学入試制度を研究し、進学希望者の進路実現に向けて適切な情報提供ができる体制を確立する。

(3)	教員のスキルアップのため、動画配信型講義の「F i n d アクティブラーナー」の視聴数を前年度比 10%増加を数値目標として、外部の研修会（オンラインも含む）に参加し情報収取をして職員研修会に参加する回数を増やします。
-----	--

Ⅳ. 経営・管理

Ⅰ. 募集体制と広報

1. 目指す姿に掲げた「5つの教育を柱とするブランド力ある教育」を意識し、私立の独自性を活かした戦略的な「入試・広報」体制を確立する。

(1)	3 回行う学校説明会に各回 300 名の受験生を迎えることができるようにします。
-----	--

2. 入学生のニーズ、在校生の満足度を把握し、募集体制と広報に活かせる体制を構築する。

(2)	クラブ活動のみならず、学校全体の教育活動の魅力を発信していきます。受験生 1,000 名を確保できるようにします。
-----	---

3. 学校説明会やクラブ見学会など募集にかかる取組みを学内で適切に計画し、強化する。

(3)	学校説明会に足を運んでもらうための広報活動を行います。クラブ見学会を適切に計画します。
-----	---

Ⅱ. 働き方改革

1. D X を推進し業務の効率化を目指す。

(1)	職員が共有する情報のペーパーレス化は、今後も推進します。長時間労働の 10%減少と、休暇取得率の 10%増加を目指します。
-----	---

2. コンプライアンスを徹底できるような管理体制を構築する。

(2)	新しく赴任した教員が分かりやすいように、校内の規程集を完成させます。さらにこれをもとに今年度、管理体制を整えます。
-----	---

Ⅲ. 採用計画

1. 計画的な採用と適正な人員配置を実現できる体制を構築する。

(1)	新規採用は、平均年齢が 40 歳代の半ばを維持できるように、計画的に行います。
-----	---

V. 財務

I. 財務運営方針

1. 2030 年に向けて設定した財政運営目標を達成する。

(1)	転出者について、一桁の 5 名以内に抑える努力をします。そのために生活（生徒）指導にも力を入れます。
-----	--

2. 奨学生を適正値におさめ入学生を安定的に確保することで、適正な収支バランスを作り出す。

(2)	クラブ奨学生のスカウトは他校との競合という側面もあり難しさもありますが、競合校に負けない求心力が持てるように全教職員で協力していきたいと思います。
-----	---

3. スクールバス事業にかかる効果測定と検証を行ったうえで運行目的を明確化し、この事業において適正な収支バランスを作り出す。

(3)	スクールバス事業の支出超過（運賃収入-スクールバス契約料金）を学生生徒納付金の 3.7 パーセント以下とします。今年度も運行方法については更なる改善を検討します。
-----	---

4. 新施設の建築や整備の設置・修繕等を念頭にした中長期的な財政計画を立案する。

(4)	学外非公表
-----	-------

5. 設定した寄付額を達成できるような募集体制を構築し、寄付を推進する。

(5)	いただいた寄付の活用状況を、ホームページ等を使って紹介していきます。
-----	------------------------------------

Ⅱ. 施設・設備

1. キリスト教教育を象徴する講堂（多目的礼拝堂）を建設する。

2. スクール・ミッションを体現できる施設（教室、交流スペース、図書館、体育施設など）の設計を行う。

3. 上記は、財政運営目標を達成した際に現実化に向けて検討を始める。

(1)	これらの実現は、2040 年を念頭において、計画段階で慌てずに設計できるように、話し合っていきます。
-----	--

以 上

北星学園大学附属高等学校の中長期計画

スクール・ミッション

「キリスト教精神に基づいた他者と共に生きる自立した市民としての人格形成を育む」 主に3つの力を育成することを大切にする。 1.「共育」を理念とし、他者の意見を聴き主体的に思考できる生徒の育成 2.「知る力」を養い、自己理解と世界理解を深め、社会における自らの視野を広げることのできる生徒の育成 3.「探究」することによって、学びを社会につなげ、社会に還元する力を身に付けた生徒の育成

2040年までに目指す姿	強化・改革に取り組む事柄			2030年Milestone（中期目標）	
【5つの教育を柱とするブランド力ある高等学校】 1.「時代の変化」に則し未来をひらく教育 2. 課外活動等を通して「人間性」を育てる教育 3. 多様性を尊重しながら「社会性」を育てる教育 4. 語学・異文化理解・平和教育を通して「国際性」を育てる教育 5. 北星学園大学との高大接続教育	教 学	Ⅰ教科教育	ス ク ー ル ・ ポ リ シ ー を 踏 ま え た 教 育 を 実 施 し、 ス ク ー ル ミ ッ シ ョ ン の 実 現 を 目 指 す。	知識を得ることや学ぶことに能動的に取り組み、自らの世界を広げることができるよう、授業や行事を計画する。	
				学習の機会に他者の考え方や価値観に触れさせ、知識や視野を広げ（深め）る事で、人間性の成長を図る。対話による学習の機会を多く設け、周りの力も借りながら課題解決の力を養えるような指導力を身につける。	
				適宜必要な情報を導き出し、それらを有機的に組み立て活用し作り上げていく力を育めるように、教員の情報スキルを高める。	
				高校生活の間に、科学的・論理的な思考を深める事ができるように、3年間の学校生活の中であらゆる機会を通じて学ばせる。	
				発表の力を身に付けられるように、複数の教科で探究的な学習を行う。	
				主体的・対話的で深い学びの実践を進める。	
				ICTを活用し、知識・技能の定着を図りつつ、効率良く学習できる環境を整える。	
				思考力・表現力・判断力を身に着け、自立した自己を確立する。	
				多様性・協働性を意識し、他者や社会、世界とつながりを意識した課外活動を行う。	
				変動する世界状況の中で、普遍的な真理（キリスト教精神に根差した人間観、倫理観など）を探究する。	
				上記項目の目標を達成するために、外部研修への参加推奨、オンライン講義の参加、講師を招いた研修会の開催などで教員のスキルを向上させる。	
		Ⅱ生活指導		人は社会の中で育つという考えに基づき「集団づくりを中心に据えた教育」を理念とする実践構築のための具体的な仕組みを確立する。	
				他者理解と自己表現を養いながら、「人間性」「社会性」を育てるため、課外活動の活性化と指導体制を強化する。	
				生活指導上の問題が起こる前に全教員で「未然に防ぐ」ことができる指導体制を構築する。	

2040年までに目指す姿	強化・改革に取り組む事柄			2030年Milestone（中期目標）
【5つの教育を柱とするブランド力ある高等学校】 1.「時代の変化」に則し未来をひらく教育 2. 課外活動等を通して「人間性」を育てる教育 3. 多様性を尊重しながら「社会性」を育てる教育 4. 語学・異文化理解・平和教育を通して「国際性」を育てる教育 5. 北星学園大学との高大接続教育	教 学	Ⅲ 進路指導	スクール・ポリシーを踏まえた教育を実施し、スクール・ミッションの実現を目指す。	生徒自らが望む将来像に見合った進路選択ができるように、進路指導体制を強化する。
				大学生（学園内）との交流等も含めた高大連携事業の効果を検証し、取り組みの強化を計りながら学内進学者を増やす。
				時代によって変化する大学入試制度を研究し、進学希望者の進路実現に向けて適切な情報提供ができる体制を確立する。
	経 営 ・ 管 理	Ⅰ 募集体制と広報		目指す姿に掲げた「5つの教育を柱とするブランド力ある教育」を意識し、私立の独自性を活かした戦略的な「入試・広報」体制を確立する。
				入学生のニーズ、在校生の満足度を把握し、募集体制と広報に活かせる体制を構築する。
				学校説明会やクラブ見学会など募集にかかる取組みを学内で適切に計画し、強化する。
		Ⅱ 働き方改革		D Xを推進し業務の効率化を目指す。
				コンプライアンスを徹底できるような管理体制を構築する。
		Ⅲ 採用計画		計画的な採用と適正な人員配置を実現できる体制を構築する。
	財 務	Ⅰ 財務運営方針		2030年に向けて設定した財政運営目標を達成する。
				奨学生を適正値におさめ入学生を安定的に確保することで、適正な収支バランスを作り出す。
				スクールバス事業にかかる効果測定と検証を行ったうえで運行目的を明確化し、この事業において適正な収支バランスを作り出す。
				新施設の建築や整備の設置・修繕等を念頭にした中長期的な財政計画を立案する。
		設定した寄付額を達成できるような募集体制を構築し、寄付を推進する。		
		Ⅱ 施設・設備		キリスト教教育を象徴する講堂（多目的礼拝堂）を建設する。
				スクール・ミッションを体現できる施設（教室、交流スペース、図書館、体育施設など）の設計を行う。
	上記は、財政運営目標を達成した際に現実化に向けて検討を始める。			